

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター		
課名	産業政策課		
指定管理者名	株式会社ピーエーシー		
指定期間	平成31年4月1日～令和5年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和4年6月6日(月)		
評価委員 ※()内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 大村 博 (経済局次長兼商工部長) ②委員 鈴木 高美 (参与兼まちは劇場推進課長) ③ 〃 桐野 勝 (産業政策課長) ④ 〃 杉山 浩之 (株式会社販売促進研究所 代表取締役) ⑤ 〃 安武 伸郎 (常葉大学 造形学部 学部長)		
評価点 (各委員平均点)	88.6点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響を受けながらも、仕様に則った適切な施設運営が成されている。 ・第1期(平成28年度～平成30年度)からの指定管理者の経験や新しいセンター長の知見を踏まえた運営方針が明確化されており、指定管理者の創意工夫も感じられた。 ・一般市民(全世代対象)、クリエイター、企業まで幅広いターゲットに対して、狙いを持った事業企画が実施されている。特に、文化・クリエイティブ振興の観点で子供を対象とした事業企画を増やしている点は評価でき、一定の成果も見受けられる。 ・一方で、産業振興の観点では、企業向けの事業企画や集積したクリエイターの活用方法などは強化・改善の余地が感じられる。 ・CCCには産業振興と地域文化振興の二面性が求められているが、それぞれで働きかけるターゲットや事業企画の内容、成果の評価方法が変わるため、それに合わせた仕様の業務内容、評価方法などを再検討する必要がある。 		

総合評価結果総括表

施設 の 名 称 [静岡県文化・クリエイティブ産業振興センター]
 指定管理者名 [株式会社ピーエーシー]

課名 [産業政策課]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(1) 仕様書に示された事業が予定どおり円滑に実施されたか。	29	30	32	28	32	30.2
①クリエイター育成のための講座等の開催	4	5	4	5	5	4.6
②文化・クリエイティブ産業の振興に関する研修、講座及び講演会の開催	4	5	5	5	5	4.8
③クリエイターの創造的な活動の発表	5	5	5	4	5	4.8
④クリエイター相互及びクリエイターと他の事業者の交流	4	3	5	4	5	4.2
⑤クリエイターの創造的な活動による新産業の創出及び既存産業の高度化の研究に対する支援	4	4	3	4	4	3.8
⑥文化・クリエイティブ産業に関する情報の収集及び提供	4	4	5	3	4	4.0
⑦海外等クリエイター活動事業への支援						
⑧文化・クリエイティブ産業を通じた地域文化の振興	4	4	5	3	4	4.0
(2) 施設利用に関する業務が適切に実施されたか。	5	5	5	5	5	5.0
(3) 適正な能力を持った職員が適正な人数配置されたか。	5	5	3	5	5	4.6
(4) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施されたか。	5	5	5	5	5	5.0
小 計	44	45	45	43	47	44.8
2 指定管理者の創意工夫	【配点15点】					
①指定管理者の人脈、知識、経験等を活かした文化・クリエイティブ産業の振興に関する研修、講座及び講演会の開催。	5	4	5	5	5	4.8
②第1期指定管理業務（平成28年～平成30年度）から得られた知見を活かした事業の企画・運営を実施。	8	8	8	8	10	8.4
小 計	13	12	13	13	15	13.2
3 市民（利用者）のサービスの向上	【配点15点】					

(1) 施設の利用状況について検証し、改善に向けた取組みがなされているか。	5	3	3	3	5	3.8
(2) 利用者の満足度調査を実施し、結果を反映させた運営を行っているか。	10	6	10	8	8	8.4
小 計	15	9	13	11	13	12.2
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(1) 第2次静岡市産業振興プラン、5つの戦略産業の1つである「文化・クリエイティブ産業」の振興に沿った施設運営が実施されたか。	8	10	8	10	10	9.2
(2) 静岡市総合計画、5大構想の1つである「まちは劇場」の推進に沿った施設運営が実施されたか。	8	10	10	8	10	9.2
小 計	16	20	18	18	20	18.4
合 計	88	86	89	85	95	88.6

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

<p>【A評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリエイターに向けた支援、一般向けの事業等を目的にあわせて工夫して実施している。 ・クリエイターと事業創出への取組みも今後期待できる。 ・セミナー講座について、人脈を活かした工夫が見られる。 ・企業側への働きかけや、認知度向上に向けた取組については、更なる検討が必要ではないか。 ・施設運営は、実施されているととらえているが、評価の方法は難しい。
<p>【B評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において出来る範囲のことは行われていたと思います。 ・地元産業とのコラボレーションが少ない印象を持ちました。 ・市民のニーズにマッチした講座が行われて行ければ尚良いと思います。 ・調査を踏まえての改善が弱い印象を持ちました。 ・今、求められている範囲を、現在の様に制限のある中での活動としてはよくやられていると思います。
<p>【C評価委員】</p> <p>①仕様書における<地域文化の振興>と<地域経済の活性化>の2点について、両目的に対する事業計画及び成果評価を、明快に区分する必要がある。</p> <p>②特に、産業振興に関して、経産省“高度デザイン人材”にあるように、産業の上流工程からのデザイン参画、検討は今後の課題ではないかと考える。</p>

③事業が産業高度化において課題があるとしたら、事業スタッフ構成の検討もあり得ると考える。

①産業政策（新産業創出、既存産業高度化）について、企業側のニーズの把握や「デザイン」を旧来の受諾産業ではなく、事業の川上から組み込むといった現代的な知見や理論に基づいた啓蒙や教育活動が重要ではないかと考える。

②文化芸術への感度醸成は、小、中、高校の教員を対象とした働きかけも有効と考える。
（美術だけではなく、社会、理科等の分野。算的評価が必要なのでは？）

①事業ごとに、対象とする利用者の想定が異なると思われるので、観賞者、事業者、クリエイター、学生などの区分を設けたクロス分析を行うなど、より算的な成果の把握が有効ではないかと考える。

②一般論になるが、PDCAによる自己点検、自己評価のしくみの確立が重要と思われる。

①産業の高度化の1つが、企業がクリエイティブさを自社の戦略的資源として位置づけ、自社組織や文化として運用、発展させる姿がある。現状は単発のクリエイター支援が中心であり、産業の高度化推進が実現できているかどうかは判断しにくい。

*総論として、地域文化の振興として、十分な実績を感じました。一方で、地域経済活性化については、デザイン経営学など国の全体方針を組みこんだ計画が重要と感じました。

【D評価委員】

- ・参加者、関係者から一般人にまで対象としようとする努力が見られる。
- ・SNS系の情報発信が弱いと感じる。
- ・文化芸術の関心度を高めるためにターゲットを事業ごとに分けて決めているところは工夫がされている。
- ・CCCの認知度向上を図るために、現状の数値を把握したい。
- ・リピーターを増やすことも大事ではないか。
- ・アンケートの集計などを行い事業に反映させていると思う。
- ・文化・クリエイティブ産業は未知数であるが、現状のCCCの運営は仕様に従い良好な運営だと評価できる。

【E評価委員】

- ・若手クリエイターのほか、子どもを含めた一般市民を巻き込んだ事業展開について高く評価したい。
- ・クリエイティブ産業は、様々な分野を含んでおり、御苦勞も多いと思うが、今後も地域や産業との連携を期待したい。
- ・指定管理者の母体のネットワークを活かすとともに、センター長の逝去による交代を新たな事業運営に活かしている。
- ・一般利用者の意見もそうだが、クリエイターや産業界の意見をこれまで以上に尊重していただきたい。
- ・施設の運営や市の補助事業等により、クリエイターの集積、登録が進んでいる。
- ・市の方針にも沿った事業運営により、良好に施設が管理されている。

評価委員会としての意見

- ・新型コロナの影響を受けながらも、仕様に沿った適切な施設運営が実施された。
- ・第1期からの指定管理者の経験や新しいセンター長の知見を踏まえて、運営方針や事業企画など、仕様を達成するための指定管理者の創意工夫も感じられた。
- ・市民に対する地域文化振興という観点では、CCCの取り組みは一定の成果をあげていると思われるが、産業振興の観点では企業を意識した事業企画や情報発信の工夫、集積したクリエイターの活用方法など、強化・改善の余地があると思われる。